

第三次産業における労働生産性の統計的把握

[研究メンバー]

主査	江見康一	帝京大学教授
	今泉佳久	千葉経済大学教授
	今野浩一郎	東京学芸大学助教授
	関口光正	東京家政大学助教授
	寺中純子	日本長期信用銀行産業調査部
	宮下和雄	東京商工会議所産業経済部課長
	米村恵子	余暇開発センター主任研究員

[報告書目次]

- I 労働生産性研究委託の経緯
- II 総論—サービス産業の労働生産性計測の必要性
- III 個別業種の生産性についてのケーススタディ
 - 1 小売業の労働生産性
 - 2 運輸業の生産性測定方法の検討にあたって
 - 3 外食産業の労働生産性
 - 4 医療サービス産業における労働生産性
 - 5 ホテル業の生産性について
 - 6 情報サービス産業の生産性
- IV ケーススタディから得られた成果と総論をふまえた共通項および今後の課題
- V 63 年度における検討経過

[内容要旨]

近年わが国においてはサービス産業経済化が急速に進展している。円高以降の輸出から内需への転換、内需主導の景気拡大もサービス経済化に拍車をかけている。サービス経済化の労働面への影響としては、就業形態の多様化、労働時間の弾力化等があり、これに対応して、従来の製造業中心から第三次産業に労働行政の重点を移しつつある。そこで、労働統計においても第三次産業の雇用、労働条件の実態を明らかにすることが求められており、本研究は、その課題の一端に取り組んだ。

労働生産性は、労働福祉の向上を図る指標として労使関係においてはもちろん、国際比較の観点からも重要な意義を有している。春の賃金交渉においては労働生産性の上昇率が賃金決定の大

きな要因となっている。また欧米並みの労働時間水準に向けての労働時間の短縮がわが国の大きな課題となっているが、この場合でも労働生産性の向上成果を賃金と時短に適切に配分することが求められている。

このように労使関係において労働生産性が重視されるのは、生産性の上昇の範囲内であれば、価格の上昇を伴わなくても労働条件の向上が図られるからである（ただし資本と労働の分配率を一定とする）。

ところが第三次産業部門の生産性上昇率は製造業部門と比べてきわめて低くなっている。第三次産業部門では、資本の労働代替がなかなか進まず、労働生産性が上昇しにくいからである。

また労働生産性上昇率プラス労働力人口の増加率が潜在経済成長率となるから、生産性上昇率の低下は経済成長率を低くすることになる。

したがって、第三次産業のウェイトが6割に達して、さらに高まろうとしている現在、いかに第三次産業の労働生産性を上昇させるかが、労働福祉の向上を図る観点からきわめて重要なポイントとなっている。しかしながら、第三次産業の労働生産性をどのようにとらえるのかといった概念やその計測方法に関して確立したものが無いのが実情である。

「サービス産業の労働生産性の計測」という課題は、国全体の労働力人口のうちサービス産業に従事する就業者の割合が着実に増大し、今や60%に近づくという趨勢の中で、全産業の労働生産性の動向がサービス産業のそれによって規定され、ひいては今後の経済成長力にも影響をもつようになるとの考え方が背景にあるにもかかわらずサービス産業の労働生産性については、その概念規定や統計的計測が必ずしも十分に行われているとはいえない。このことがサービス産業の国民経済に占める位置づけや、その将来予測について不透明さをもたらしていること、などによってその研究が強く望まれているものである。

そこで、本研究では、全体を大きく総論部分と各論部分に分け、前者については、従来の労働生産性研究の考え方に対して、サービス産業の労働生産性研究がどういう特性をもつか、この課題にどう取り組んだらよいか、についての一般的考え方を述べ、そのうえで、サービス産業全体の労働生産性の計測について、既存の事例を含めて一応の整理を行った。

次に後者の各論については、サービス産業を構成する個別業種について、労働生産性の考え方がどう適用され、具体的な計測がどう行われるかの検討を進めた。その際選んだ個別業種は、(1)小売業、(2)運輸業、(3)外食産業、(4)医療サービス、(5)宿泊産業、(6)ソフトウェア業の6業種である。

サービス産業の労働生産性の計測方法については、必ずしも一般的方式化についての合意が確立しているとは言えない段階であるので、本研究ではサービス産業の個別業種の研究に焦点をあて、そこで生じる概念上、計測上の問題点を明らかにすることによって、次のステップへの準備作業に資する、という考え方をとった。なお、個別業種についても当該業種の特性を理解することで終わったとか、一応の計測も、**fact-findings** の整理という段階に止まった面がある。